



Satoshi Zaitso

## 財津 聡士 先生

大分県立別府特別支援学校  
養護教諭

「誰でもオーケー！ウェルカム！」  
そんなスタンスで子どもと関わることで  
できる養護教諭が大好きです！

手術室看護師や学校看護師としての勤務経験をお持ちであり、何を隠そう秋開催予定の友の会研修会の実行委員長として準備に奔走されている財津先生に、今回はお話を伺いました！

<今回のインタビュアー>

長野 雄樹

(名古屋市立西特別支援学校)



先生のご経歴を教えてください！

現在は、大分県の東部に位置する大分県立別府支援学校という全校児童生徒数約70人規模の学校で勤務をしています。病弱・肢体不自由の児童生徒たちが通う学校で、医療的ケアを必要としている子どもなども日々関わっています。現任校が養護教諭として初めて配属された初任校で、今年度勤続5年目を迎えます。

また、私には養護教諭として働く前に、手術室の看護師として2年間程病院勤務をしていた経歴があります。その後、とある縁で特別支援学校に通う医療的ケアを必要とする子どもにも関わる学校看護師として働くこととなり、そちらでは計7年間お世話になりました。看護師として、学校で勤務をする中で、「子どもたちが一人ひとりの成

長を見守ることができる学校って素敵だな」と感じるようになり、保健室や養護教諭に興味をもつようになっていきました。ちょうどその頃、北田先生(本企画第2号掲載)が県内で男性の養護教諭として活躍されていることも聞き、「男性でも目指すことができるんだ」といった前向きな気持ちになることができ、この道を目指す決心ができました。医療的ケアの看護師として働きながら、通信制の大学で4年間かけて教員免許を取得し、地元大分県の採用試験を受け、合格をいただき現在に至ります。



(学校看護師時代)

仕事に取り組み上で、先生が大切にされていることを教えてください

大切にしていることといえば、そうですね…。子どもたちを「受け入れる姿勢」でしょうか。保健室へやって来てくれた子どもをきちんと受け入れるということ。悩みを抱えてドパを遠慮気味にノックする子もいれば、一見刺々しい態度でやって来る子もいます。そういった中で、彼らの背景に目を向け、受容する態度で接することで行き場や居場所を保障するということですかね。

どんな状況であったとしても、その子なりに保健室へ身を寄せた理由に目を向けることで、子どもたちにとっての「誓」となりたい。そんなことを意識しながら、日々保健室の経営に取り組んでいる、といったことはありますね。

現在、先生が特に力を入れて取り組まれていることを教えてください

そうですね、いま力を入れるといいますが、本当に大事ななと感じて取り組んでいることは、月並かもしれませんが性教育ですね。自分自身もこの分野には興味がありますし、今の養護教諭という立場で子どもたちに伝えられること・やれることがまだまだあるのではないかと改めて、勉強させていただいている感じです。

最近では、二次性徴を学ぶ授業に担任の先生方と連携しながら臨みました。小学部4年生の男子に対して、体の発育・発達についてお話をする機会をいただきました。

また、本校には養護教諭が2名配置されており、相手の先生は長らく性教育に尽力されてこられた方です。そういった心強い方に適宜助言をいただきながら、様々なケースに保健室一丸となって対応に当たっているところです。



看護師と養護教諭、それぞれの子どもへの関わり方の「違い」があれば、教えてください

実は最近、自分の中でもこのように感じて考える機会があったんですけど…一番は、やはり「治療の場」と「教育の場」といった違いで、

関わり方の違いがあるなと感じますね。もちろん、養護教諭も看護師も、その人の健康を維持・増進していくために働きかけるといった根本的な部分に相違はないと思うんですが、その先はどういったことを期待するか、どんな力を身に付けてほしいかとか、そういった一人ひとりの子どもへの「願い」のようなものが、より明確でより強くあるのが養護教諭なのかな…と。そのように思います。

教室になかなか足が向かなかった子どもが保健室にやって来て、養護教諭である自分と時間を共有することで勇気をだして教室に向かい授業に参加することができるよう。こうした、将来につながる力を関わりの中で身に付けていく。このようなお手伝いができる機会が養護教諭には多く与えられているのではないかなと。なんだか、うまく表現することが難しいですね。(笑)

先生が感じる、養護教諭という職の魅力  
を教えてください

やはり、学校という環境の中でそこに通うすべての子どもと関わりをもつことができることや、彼らの変化・成長を見守り続けられることにあると思います。それから、養護教諭という立場上、「誰でもオーケー！ウェルカム！」というスタンスで接することができると、どんな背景をもつ子どもとも関わっていくことができると思います。どんなに独りぼっちの子にも手を差し伸べることができるといった点も大きな魅力であると思います。自分の性分には、とても合っているなと感じています。



最後に、秋開催予定の第13回友の会研修会について、コメントをお願いします！

それでは、改めて…この度、第13回男性養護教諭友の会研修会の実行委員長を拝命することになりました。今年は、本当に久しぶりの【対面開催】を目指し、目下準備を進めているところであります！自分自身、友の会研修会へ参加させていただいたのがコロナ禍によるオンライン開催となった年からだったので、画面越しであってもたくさんの方からお声掛けをいただき、本会のつながりを強く感じることができました。「オンラインでこの様子であれば、対面では今まで以上にたくさんの方のつながりが生まれ、もっともいろいろなことが巻き起こるのでは…」そういった、期待をもちつつ、実行委員一同、皆様（養護教諭という枠にとらわれず）と東京の地でお会いできることを楽しみにしております！



**【研修会公式 Instagram】**

**【レッツ発掘！男性養護教諭図鑑】**

発行：男性養護教諭友の会事務局  
編集：長野 雄樹（名古屋市立西特別支援学校）

